

### 第3回京都府総合計画策定検討委員会 議事内容

- まず1点目に気にしているのは、おそらくこの計画が英語に翻訳されて公表等されるのではないかと思います。国際社会で見たときに、人権と基本的自由の尊重は世界的にも核となる価値ですので、そうしたことを是非入れていただけたらありがたいと思っております。また今後の運営については、京都府は広いので地域毎の対応、色々な人の声が市民参加型でどう反映されるのか、またどのように計画の進捗状況を評価するかが重要ではないかなと思います。
- 知事のリーダーシップの下、短期間でこれだけのものをまとめていただいたことにまずは感謝申し上げたいと思います。今回はPDCAのうち、「Plan」ができたという位置づけです。もちろん、一部「Do」の部分が既に始まっているのかとは思いますが、今後どうやってPDCAを回していくかがポイントになります。広域連携の3番、分野別の基本施策の10番がスポーツに関係するところですが、これから計画を推進していくに当たって、色々な面でご協力していくつもりです。特にプロスポーツを身近に感じられる京都府、地域スポーツ等の振興、それから京都府に多く暮らしている大学生を活用していくといった観点で貢献できたらと考えております。これは私の持論ですが、今まではオリンピックやワールドカップ、国体など、大きなイベントを成功させることにより、スポーツをレガシーとし続けることがスポーツの持つ役割の主流であったかと思いますが、本来は、アマチュアスポーツも含めて、日常に根付いたスポーツを「する」「みる」「ささえる」という観点で府民がスポーツを身近に感じられること、これが地域の活性化や地域の愛着につながるものだと思っております。この計画を遂行していく中で色々な変更点も出てくるでしょうが、より実り多いものになることを願っています。
- 短期間でこれだけのものを作るのは大変だったと思います。全国旅行支援も始まり、お客様も北部に帰ってきてくれて、やっとコロナが終わって新しいステージが始まったんだなということを感じている状況です。地方でもノーマスクの店が出てきましたが、どこまでコロナを意識しながら生活していくのか、お客様をお迎えする側はどの程度の間隔で日々向き合っていくかというところはまだまだ手探りの状態ですが、少なくとも次のステップに移ったかなと感じます。今このタイミングでこういった素晴らしい計画ができたことは、タイミング的にも素晴らしいなと思っております。また、そのような大事な計画に関わらせていただいて、ご意見を聞いていただけたことはすごく感謝しています。ただ、本当に日々めまぐるしく現場は変わっていきまして、お客様が帰ってくると、今度は人手不足で、帰ってきたお客様に対応するマンパワーを確保するため、一生懸命知恵を絞りながら人手をかき集めている状況です。  
また、計画の中で子育て環境日本一を掲げておられますが、私どもの会社でも企業内託児所を設けようと思ひまして、来年4月始動に向けて今色々動き出しています。何とか足並みを揃えるというか、京都府が向かう方向に沿って、私達も進化と変化を続けて生き残ってい

きたいと思っております。引き続きご支援の程よろしく願いいたします。

- 私からは5点申し上げたいと思います。まずは委員会へ提案された様々な意見を織り込んで、新しい総合計画を作成いただいておりますことにお礼を申し上げたいと思います。変化に対応した非常に良い計画ができたのではないかと思います。

2つ目です。コロナとウクライナ侵攻はそれ以前からあった時代の潮流を猛烈に加速させたと思います。従って、対策を行うスピードをいかに上げていくかが最大の課題です。総合計画の改定を1年前倒しし、しかも3~4ヶ月という短期間でまとめ上げられたということは、まさに対策を加速する第一歩を確実に踏み出したということであり、大変頼もしく感じています。実行段階におきましてもスピード重視で是非進めていただきたいと思います。

3つ目です。環境変化のスピードが速いということは、府民や企業が抱える不安やニーズも速いスピードで変化しているということだと思います。従って、府民や企業が持っている不安やニーズを常にウォッチし、その変化に合わせて計画を修正していくことも大事です。新総合計画は、新たに発生する課題にも機動的に対応する計画であると思いますが、このためのモニタリングと革新性の仕組みを持っていることも大事ではないかと思います。

4つ目です。例えば子育て環境日本一の実現には、狭義の子育て支援策も必要ですが、女性がキャリアを切らさず働き続けられるための施策、あるいは若い人が集まってくる産業の育成、さらには保育・看護・介護産業の強化など、雇用・産業・教育・福祉など、あらゆる施策を総動員していくことが大事だと思います。生涯現役についても、格差に対する施策も同じです。既に縦割り組織に横串を入れた施策がずいぶんと行われている訳ですが、新総合計画に掲げた施策をスピーディーに完遂するには、この横串を更に太くし、あらゆる施策の連携を図っていくことが大事です。加えて、ミッションが重複している組織や機関の統合を思い切って進め、対策の推進力を結集させていくことも実行のスピードを上げて行くために重要なことではないかと考えております。

最後です。スピード感を持ってまとめられた計画、スピード第一で変化に機敏に対応しながら総合力を発揮し、実行し、成果を上げられるよう期待をしております。

- 皆さんおっしゃいますとおり、非常に短期間でこれだけの計画をまとめられたということで、本当に敬意の念を持って感謝申し上げたいと思います。また、計画の改定の視点がこのような世の中において、「安心」を土台として、人と人との絆を大切に未来に希望をもてる「温もり」「ゆめ実現」ということで、私自身非常に腹落ちもしますし、足がついた非常にいい計画が出来たのではないかなと感じております。また、改定案でけいはんな学研都市の強みを京都府全体の中で活かしていただくということについても非常にありがたいと感じています。今後この計画を進めていくに当たりまして、極めて現実的な話で恐縮なのですが、これから新しい社会課題をどうビジネスに活かしていくかについて、単なる最先端シーズだけではなくて、京都の持つ文化、歴史などと併せて活かしていくことは、全

く書かれているとおりで感じています。現場で色々取り組んでいる中で感じますのは、新しい社会課題はシーズ側の人間にとってなかなか感じづらいところがあるのではないかと思います。例えば、地域で発生している課題、または色々な業界が持っている課題、そういった課題を見える化することに産官学が取り組んでいくようなベースがあれば、新しいビジネスモデルに繋がりやすいのではないかと考えているところです。

もう一つは、文化庁移転や 2025 大阪・関西万博など、国内外から京都へ、人や情報の大きな流れが期待されるということで、全くそのとおりでと思います。やはりこの京都という地は日本でも唯一の地ですので、そのときに京都の観光文化と併せて、やはり万博というものはある意味ビジネスの場でもあるのではないかと思いますので、例えばけいはんな学研都市の最先端技術や京都企業の強みをアピールできるような場を設けながら、海外から来られる要人の方やビジネスマンにアピールできるような「けいはんな万博」というものに取り組んで参りたいと考えておりますので、また皆様方のご支援を賜ればありがたいなと思っております。

- この度本委員会に携わらせていただき、大変光栄に感じております。与えられた修正期間が少なかったにもかかわらず、委員の皆様のご意見を細かく反映したものになっており感謝しております。最終案には女性の就業継続やキャリア形成支援、男性の家庭への参加、子育てのやり方などテクノロジーで解決するフェムテック分野などについて明記されて、内容は非常に革新的なものになっていると思っております。ぜひ女性の個人個人のポテンシャルを最大化させ、テクノロジーを活用してワークライフバランスをしっかりとサポートしながら少子化対策に取り組んでいただけますと幸いです。また国内のスタートアップ支援情報の多言語化推進をお願いし、国際的な人材確保のための体制整備についても言及され、そういった措置は京都のさらなるイノベーション拠点としての発展に必ず繋がると思っております。ワクワクしながらこれからの京都の発展を心待ちにしております。
- まず、最終案への変更点について非常に細かく意見を汲んでいただき、ありがとうございます。感染症対策が押し付けられるものじゃなくて、主体的に取り組むものであり、それを支援するという点を明確にいただいたことが非常に良かったと思っております。それから危機管理の部分でオペレーションする危機管理センターの設置に関しまして、新興感染症を分けて考えるのではなく、オールハザードに対応することが策として必要ではないかということについては、私もそのとおりで思っております。私はその上で、京都版 CDC とか、そういったものができた際に、感染症部局の中で情報シェアする場所としてもオペレーションルームを設置するのがいいのではないかということで、前回発言させていただきました。今後のこのプラン、計画の活用については、こういった計画は世代が変わっていく、あるいは人事異動などで、最初に書いた人の想いやプロセスが失われていってしまうということが往々にしてございます。当初の委員の発言や書いた人の想いがきちんと伝

わっていくと、最終的に計画の真の成果が見えてくるのではないかと考えております。それから今回非常に貴重な機会に参加させていただいたことに感謝しております。この議論の中で社会に直面する全体的な問題というのを広く見ることができました。2020年は、まさに東京オリンピック・パラリンピックでお祭り気分でもありましたが、人口減少に向かって一つのターニングポイントという中で、少子化問題や、経済が縮小する中での地域産業の振興、デジタル化、あるいは外国人の方とまちの方が共に心地よく過ごしていく環境を作っていくことであるなど、全国の自治体共通の問題が議論されたのではないかと考えております。その点で今その全体像とプランが示されたことはよかったのではないかと考えております。

- 短期間でスピード感を持って、委員の皆さんの意見を施策に盛り込んでいただきまして、ありがとうございます。最終案の中で一つ特徴というか、一歩進んだ政策になったと感じるのが、子ども達が学校に行くのが楽しいというのを数値化するということです。これを数値化することは難しいと思うのですが、それができたならやはりそれは素晴らしい中身になっていくのではないかと思います。不登校も増えていますので、そういう意味ではこういうことをしっかり数値化することが本当に大切かなと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。次に、労働移動を含む人材育成を一体的にシームレスに支援するということが、縦割りだとシームレスにならないので、そこを双方向に、シームレスにするということを実際にさせていただきたいと思います。あとは、中小企業が求める人材を育成するということが、逆に中小企業が求める人材とは果たしてどういう人材なのかを議論しないと、なかなか進んでいかないと思います。中小企業に就職していただくことはもちろん、その人材を辞めないように管理する指導者としての育成も重要であり、本当にそこがないと人材の流出を防ぐことは難しいので、そこをどうしていくか。ウルトラ C ですが、人材の育成をぐっと政策で取り込んでいただければ、本当に企業は助かるというか、学びたいものなのではないかなと思います。その人がやめてしまうと、そこに技術が残らないし、今限りある資源の人が新しい人を育てるという二重の苦痛になるので、やっぱり辞めないように指導をしたり、入社される方を育成することが本当に重要なのではないかと思います。
- 私は障がいを持つ方々と一緒にお仕事をしていますので、その観点からいくつかお話しさせてもらいたいと思います。京都というのは本当に多様なものが並び立っているからこそ、文化がここまで続いてると認識しています。多様な物の価値というのが差別化ではなく、並び立っているというのが京都の文化の良さだなというふうに思っています。そこでやはり障がいを持たれた方を雇用して一緒に仕事をするというのは、多様性を担保する上で絶対に必要なことだと思っていますので、障がいを持たれた方が暮らしやすい社会づくりを京都府が進めることがものすごく文化に繋がっていくのではないかというふうに感じています。そして、推進のプロセスについても、やはり物事を推進していくとそこに文化が生まれてい

くという事の運び、要はプロセスが大事だと思います。障がいを持たれた方を雇用し、一緒に仕事をしていくという、これがまさに文化ですので、障がいを持たれた方だけへの支援ということではなくて、その方と一緒に仕事する側の意識改革みたいなものの推進も同時に進められるような形で雇用推進の施策を進めていただけるとありがたいと常日頃から思っています。例えば、障害を持たれた方のアウトプットとして、どうすればこの仕事がうまくできるのかとか、仕事のやり方について訓練されることはあるかと思うのですけれども、一緒に仕事をしていると、そこも大切ですが、実はそれよりも重要なことは、その方の特性の自己理解、自分がどういうところにつまずいてどういう対応をもらえばうまくいくのかという、その自己理解ができていれば、色々なお仕事ができるようになっていく気がとてもしています。実はこれは障がいのある方だけではなくて、普通にお仕事されている方でも同じで、これはマネジメントの一つというふうに思っています。なので、障がいを持たれた方が暮らしやすい社会を作るというよりは、障がいの有無は関係なく暮らしやすい社会を作ろうと思うと、そういったマネジメント力、そこにダイバーシティの視点を入れていくというような、そんな推進の方法がとてもいいんじゃないかなというふうに思っています。例えば以前にもお話ししたかと思うのですが、育児休業から復帰される方を「1年休んだ人だよ」と見るのではなくて、子供を育てることはまさにタスク管理、マネジメントなので、「マネジメント能力を上げてきたよね」というふうに迎え入れてもらえるという、そんなダイバーシティ目線で子育て中の女性を見る、そんな文化が京都の中で育まれていくといいなというふうに思っています。そういう意味で言うと、まさに対象を絞りすぎないでほしい、間口を閉じないでいただきたいなと思います。障がいを持たれた方に向けた直接の支援というわけではなくて、仕事は双方のコミュニケーションで成り立っていますので、一緒に仕事をする側に対しての意識改革も含んだ、社会に対しての推進なんだという形で施策が行われていることが府民の皆さんに映るような、そんな推進をもって文化を育てていただけると、本当にありがたいなというふうに思っています。今回の計画には、連携という言葉が施策の中で多く出てきているなというふうに思っています。雇用文化も食文化も、京都にある色々な文化は一つの事柄だけで成り立っているわけではもちろんなく、色々なところの連携が大事だなというふうに思います。例えば食を扱うにしても教育と絡んで推進していくとか、観光と絡んで推進していくとか、また、推進だけではなくて京の食文化を残そうと思えば器の工芸であったり、食す場所である町家であったりという、色々なところと絡み合っただけで食文化は成り立っているのです、推進にあたっては、他領域をつなぐ、領域を超えたプラットフォームができると、企業をはじめ皆が乗りやすい。プラットフォームという開けた考え方も、文化を作っていく上、推進していく上ではみんなを巻き込む一つのやり方だと思っていますし必要に感じます。

- まず変更箇所についてですけれども、基本計画の中で、「子どもや子育て世代を見守り支える」から「社会で子供を育てる」に進化させるのだというふうに、今回指摘がありました。

私はそれをとてもいいことだと思し、積極的な表現だということもよく理解しますが、教育の世界では方向性を一気に変えると、しんどくなるという原則を視野に入れておく必要があると思います。つまり、「ゆるやかに」や「ゆっくりと」、「じっくり」といったニュアンスがどこかに入った方が、いっぺんに変えたとりわけ学校現場、子どもたちは混乱する可能性もあるので、その辺は配慮が必要かなと思います。さらに言えば、京都府の教育振興プランの中で「見守られ感」を大切にするんだという表現をこれまで非常に大事にしてきましたので、見守りという言葉が矛盾しないように使っていただいた方が、振興プランと齟齬が生じないだろうなというふうに思いました。これが変更箇所についてのコメントです。それから要望ですけれども、教育的に見た場合、社会的弱者に対する配慮に関しては、非常に目配りも配慮も行き届いている計画に今回なっているなというふうに思っています。一方、コロナ禍で子供たちが一体どう変わってきたのかというデータ分析を今鋭意進めているところですが、重要なポイントとして、例えば学力のアドバンテージがある子ども達のしんどさが実はこの間に際立ってきています。その原因はというと、みんなの中で、例えば発言をすることによって、承認欲求が満たされて自分自身を発露してきたタイプの方たちが、今は発言も自由にできず、壁を向いて食べなければならない時代ですから、その状況の中で、なかなか自己実現できないという辺りのところが、一つ背景にあるだろうと言われて始めました。つまり、そういう意味で言うと、いわゆる社会的に弱い立場の、あるいはディスアドバンテージがある方に対する配慮だけではなくて、例えばアドバンテージを持った人たちに対する配慮も一方で必要かなというような考え方も計画中に盛り込めればと思っております。

最後に感想ですけれども、この会に参加させていただいて、例えば京都の良さ、京都式少人数教育とこれまでとても大事にしてきた学校現場のカテゴリですけど、そういうことも全て盛り込まれたプランになっているというふうに思っているのです、これからもこの温もりのある京都に私も少しずつ貢献していきたいなというふうに思っています。

- まずは、中間案からの修正について、本当に短時間で全体の中に意見を取り入れていただき、感謝申し上げたいと思います。やはり私達は進捗が見える化して、府民全体で、京都府全体で進めていくこと、その第一はここにお集まりの組織、団体の皆さんが中心となって、しっかりと自分の物事としてこの総合計画を推進していくということが必要だというふうに思います。そういった意味ではどういった形にするかは別にして、やはり進捗をこれから定点管理で、確認をお願いしたいというふうに思います。また、感想ですが、今困っている人にどう届けられるかということが一番大事だと思います。企業も困っているし、ひとり親で貧困率も高い、そういった中で困った方がたくさんおられます。京都府の中で26の市町村が京都府の総合計画を我が町、我が村、我が市に置き換えたときに、何をすべきか、どう取り組んでいくのかということをしつかりと労働者の皆さんとも連携しながら、具体的に我が町としてはこうしていこうと計画、行動されて、これが早期に展開していくということ

が大事だと思います。足元では、企業の倒産が増えているという話も聞きますし、貧困率も増えています。「食べるものさえ。」というお声もあります。実際に相談コーナーに来てくださいと言っても、相談してる時間はありません。ダブルワーク、トリプルワークで働かなければ生きていけませんということもあります。そういった意味では、そういった声を市長会、町村会の中で吸い上げ、私達の団体の中でもしっかりと吸い上げ、今後のこの計画に沿った形で、誰もがこの京都府に住んでよかったと感じてもらえるよう、京都府全体で底上げしていくということが大事だと思います。

- 大変良い計画になったというふうに思っております。ただ、肝心なのはいかに実行、実現をさせていくかというふうに思います。特に現場に下りていくほど、自分たちで決めたことではないという感じで、ややもすると消化試合的な感じになる恐れがあると思います。実行に向けて京都府さんからスタートアップ、中間案、フォロー、実現チェックというそういう検証の形を是非とっていただきたい。数値目標は出ておりますが、できれば達成度といいますか、どの程度現場レベルでそれを実感しているかというような数値が出たらなというふうに思っています。そして京都の強みを一番生かした魅力を最大限引き出して、強みがさらなる強みになっていくようになればいいなというふうに思います。そのためにも他国や他府県の真似をするのではなく、また目先の利益を追うのではなく、1200年を超える歴史の中で先人たちが築き上げてくれた文化、また京都ならではのベンチャー精神を生かし、京都独自の方法で、府民がもっと自分たちの街を誇りに思えるような方向へ進んでいただければ、そしてその結果として府民の生活が向上していくところに結びつけていただければいいなというふうに思います。
- まず感想ですが、このような場を持ち推進する京都に魅力を感じますし誇りにも感じています。全国旅行支援というものが始まりました。既にご存知かもしれませんが、京都は楽天、じゃらんといった主要旅行トラベルエージェントで一瞬にして売り切れになりました。予算が既に達成してしまったということで、数時間で売り切れしました。それだけ魅力のあるエリアということであり、現在は京都府予算の範囲で公式ホームページでは予約が取れるという状況です。これを見ても、人の動きがすごく始まってきたなという機運が見られるなと思ひまして、この企画支援によって、人が動いていい・旅をしていいんだ、というような機運を行政と民間が作っていくということが色々な場面に必要なのだと、本件を機に感じているところです。私は子育てに関して、この数年間、勤務するホテル事業を通して感じたのは、まずは家族という単位で動くことがすごく増えたなということと、そして個人、個性が非常に重要視されるようになってきたなということを感じております。これは、After コロナでも、With コロナでも非常に重要視される動きではないかなと思っております。今この流れからも、「機運をつくる」ということが行政にとっても私たち事業を担う者にとってもこれから非常に大切になってくるかなと思っております。現在私が取り組む環境配慮型の

ホテル事業でも、サステナブルな動きや使い捨てを極力やめる循環型の取組を行っているのですが、この、「環境と共に生きていく」というテーマは様々な計画において必要になってくる考え方だと思いますし、そういう「機運」を私たちも高めていく努力が必須になってくると思っています。

- 皆さんおっしゃったように非常に短期間で、充実したものができたのではないかと感じておりますし、感謝申し上げます。私からは今後の進め方というところにつきまして、3点ほど申し上げさせていただきたいと思っております。

まず1つ目は、今回、計画の目標は2040年を目指してというところがございまして、こういった計画の意義は、やはり長期的に見て軸がぶれないということが大事だと思います。例えば、毎年進捗管理するというのも一つ大事な考え方で、必要に応じて修正していくという考え方も非常に大事なのですが、その一方で長期的に見た視点、視野があまりぶれないようにというのが、非常に重要だと思っています。そこに対応して、例えば市町村や民間の方々が行動されると思いますので、それを単年度の進捗管理とは別に、常に見ていただくことが必要なのではないかなというふうに思っています。

2つ目は、資料4の後半に数値目標が出ていまして、拝見すると結構チャレンジングな指標もあるなというふうに見ておるのですが、そのときにこの数値目標を意識して進めるということはやはり非常に大事なのですが、その一方で、必ずしもこの目標数値がこの目標年度で達成できるとは限らないと思うので、そのときにどういった視点が必要かなと考えた時に、多様性がやはり大事だと思っています。万遍なく全部を見ていただくと、例えば子どもの支援1つとっても、先ほどお話があったようによくできる子から少し応援しなきゃいけない子までみたいな話もあるでしょうし、そういった多様性をキーワードに追いかけていただくということが大事なのではないかなというふうに思っています。

最後3点目は、インフラの整備というところです。数値目標を見ると、インフラ部分が少し控えめに書いてあるなというところがございまして、一つの要因として、京都府だけで完結しないことが非常に多いということもあると思います。そういう意味で、国や市町村と連携しながら進捗を追いかけて、進めていただくということが大事だと思っています。それは単年で進捗管理するというよりは、最初に申し上げましたように長期的に見て、方向がぶれないようにしていただいて、どこに向かって適切に向かっていくかということ別途考えていただけるといいかなと思っています。

- まず感想ですが、最初は2040年という20年後の未来を想像し、どういった課題があるのかという議論から始まりました。自分が20年も先を想像したことがなかったので、20年後の未来について深く考えました。そして、未来に起こる大きな問題を捉えた上で変化する目前の課題を考えることができたというところは、中期方針を立てる上でぶれない方針の立て方だと思いました。また、京都府の方針の軸になる、「安心」「温もり」「ゆめ実現」とい



うこの普遍的な三つの柱があり、これだけはしっかりやろうという明確な意図が伝わり意見を出しやすかったなと思います。数値目標については、大事な数字であるので理解しようと試みましたが、本当にたくさんの課題と方策があるので、これだけの目標を達成するのは並大抵のことではないことを感じます。さらに達成目標については、意識調査の結果や、府民の皆さんがどれだけ充実感があるか等が多く、非常にハードルの高い達成目標であると感じました。20年先の人口減少や子育てについては、「子育て環境日本一」という形で大変充実した対策が練られていることを改めて感じました。また、それと同時に、子育て環境の充実、少子化に向けた取組が色々なところで進められているにも拘らず中々現実として出生率も上がってこないという状況があるので、府民が「府はこんなこともやってくれるんだ！」という強いインパクトのある政策があると良いということ、そしてその政策が途中で終わらないことが重要だと思います。子供を産んでも途中で支援が外されたりするのではないかという不安があると、その政策は上手くはいかないと思います。

最後ですが、計画案が最終でき上がっているところですが、「安全」という面では、最近、北朝鮮のミサイル発射で府民が不安に思うような状況があると感じております。やはり防災だけではなく、防衛も必要であると感じました。例えば、安価な核シェルターの開発であったり、集合住宅が集まるところに防衛設備を設置するなど、中、長期的に計画があると、府民の方の安心につながると思います。

- 各分野の委員の皆さまからの多岐にわたるご意見を伺って、私自身も非常に勉強させていただきました。6月から10月まで、委員会が開催されたこの短期間の間にも、社会の状況、情勢は刻々と変化していると実感しております。この計画の軸の部分には当然ぶれずに変わらないと思いますけれども、今後も変化にきめ細かく対応し、計画をアップデート、ブラッシュアップする、修正すべきところは修正するということが必要になってくるかなというふうに思います。

公共メディアに携わる者として、地域の皆さまの「安全・安心を支える」ということ、特に防災・減災報道には従来から重点的に取り組んでまいりました。皆さまあまり御存知ないかと思しますので、9月にスタートした新たな取組を1つご紹介させていただきます。防災の呼びかけの音声、具体的には大雨による災害が想定されるときにアナウンサーが警戒や避難を促す“呼びかけ”、これを誰もが活用できるように、AIによる音声データをオープン化するという取組です。長年防災・減災報道に取り組んできたアナウンサーの“伝える技術”を独自のAI自動音声合成システムを用いてコンピューターに学習させて作成したものです。水害が相次ぐ中、自治体や学校、企業、ローカルメディアなど、防災に関わる方々がマニュアル作りや実際の呼びかけなどで活用していただくことを想定しています。こうした活動を通じて、地域の防災力の向上に貢献したいと考えています。引き続き地域の課題に向き合い、課題解決に向けて、地域の皆さまと連携をしながら取り組んでまいりたいと思っております。

ます。

「20年後に実現したい京都府の将来像」は、非常に多岐にわたる内容ですし、目標達成、計画の実現には大変難しいこともあるかと思いますが、西脇知事のリーダーシップの下、着実に推進していただくことを期待しております。

- 1点目ですが、中間案からの変更点につきましては、各委員からの御意見を反映し、かつ、これから目指すべき姿を積極的に書き込んでいるというふうに思いました。また、本編につきましても、世界に貢献する「文化の都・京都」ということで、京都の文化と経済・観光とのつながり、世界の課題解決など、京都の持っているポテンシャルそのものが提示されています。全体を通して見ますと、「安心」を土台として、「温もり」「ゆめ実現」という、本当に普遍的なテーマであり、人が社会である、社会が人であるという本質に触れるような話が提示されており、長い歴史と伝統を持つ京都、先進的な取組をやってきた京都だからこそ辿りついた本質的な価値というふうにも思い、まとめてくださった事務局の方々のご努力に感謝したいと思います。

また、2つ目ですが、計画の推進につきましては現在、パブリックコメント中とのことですが、おそらくパブリックコメントにも応募されない、あるいは計画そのものを知らないと言った方々が一般的には多いと思います。これから、京都府がどういう方向を目指しているのかということを知ってもらうとともに、情報だけではなくて、そういった計画の具体的な方策というのは、日々の暮らしに落とし込まれて初めて生きてくる、情報としてではなくて、やはりそれが実感できる、体感できるということが重要でありますので、この委員会が大変機動的だったように、施策の方も迅速かつ機動的に進めていただきたいと思います。

それから3つ目、感想ですが、色々な方々の非常に多彩な意見をスピード感を持って取りまとめていった機動力のある委員会であったというふうに感じております。この委員会に関わった者の一人としまして、これからは期待するとともに、行政任せにするのではなくて、私たち一人一人が実際にこの京都をつくっていく、未来をつくっていく一員としての意識を持って、注視し、行動していきたいと思っております。

- 昨日から家族が発熱して、お休みさせているのですが、それでもこうやってオンラインで会議に参加ができるようになっていくというこの時代の進化に大変感謝をしております。こうして子育てをしながらでも働ける環境というのがどんどん進んでいけばいいなというふうに思っておりますし、私自身も経営する中で、子育てしながら働ける環境というところで、様々な制度を作って、いわゆる子育て支援制度みたいな形で、気軽に使ってねというふうに言うのですが、いざ使う立場になったらどうなんだろうというところで、今年度は結構自分の子供を連れて、出張に出かけたりしています。やはりそれを自分でやってみて思うのは、いくら制度が成立してもやはり文化が育っていかないと、どうしても気軽に制度を使えるとは言えないというふうに思っています。自然と「すみません」と言葉を発

している自分に気付きます。それに気付いて、やはり制度を利用するというか、子育てしながら働くといっても何か負い目があるというか、気持ちよく働ける状態になるには、まだまだ文化醸成していく必要がある。そしてそのためには、みんなでそういった制度を使っていくというところが必要なのかなというふうに感じております。

今回本当にすばらしい計画を作っていただきました。これを推進していくにあたって、私は2点提案させていただきたいのですけれども、まずはいくらどんな素晴らしい仕組みがあっても、やっぱりその仕組みだけでは駄目だと私は思っています、そこに関わる人材の専門性を向上していく、いわゆるサービスの質を上げていく必要があるのかなというふうに思っております。そういった意味では、特に、例えば児童虐待を未然に防ぐような取組等には、その取組に関わる人がより高度な専門性を持って、その現場に関わっていただくことによって、虐待の早期発見または未然防止にもつながっていくと思いますし、それは児童・福祉分野以外にも全般的に言えるのかなと思います。また、そういった人材の育成に向けた投資がとても重要なのではないかなというふうに思っております。

もう一点は、これは子育て支援のところにもあるのですけれども、本計画は2040年に向かった計画であり、2040年にバリバリの現役でこの社会をリードしているのはおそらく今10代の子どもたちなのかなというふうに思うのですけれども、そういった中高生が次世代というふうに扱われるよりかは、ともに計画を推進していく、協働していけるような形がとれないだろうかというふうに思っております。私も様々な取組で中学生や高校生をうちの職場に招いて、インターシップであったり、また地域の活動と一緒に活動したりすることがありますけれども、正直彼ら彼女らの、地域参加、地域貢献への意欲というのは、少なくとも私が中学生、高校生だったときより、かなり高くなってきているのではないかなと思います。あとはそういった現代の10代は呼吸するかのよう社会貢献とかに関わることができるというようなことを言われたことがすごく印象に残っておりまして、そういった次世代と言われるような子どもたちですけれども、ぜひともこの計画実現に向けて協働するパートナーとして、また当事者として、一緒に何か取り組んでいけるような場面を多く作っていくことによって、本当に2040年を迎えた時にさらによりよい京都になっていくのではないかなというふうに思いました。

- 多様な担い手の育成や、荒廃農地の増加、自給率が上がらない点などを最終案で汲み取っていただきました。こうした課題をどのように解決していくかは難しい問題ですが、協力できる部分でしっかりと取り組んでいきたいと思っております。また、別の観点から一つお願いがございます。農業、水産業、林業はなくてはならない生命産業と言えますが、食料を供給するだけではなく、国土の形成、水の涵養、良好な景観の形成、農村部では文化の継承など、多面的な機能があります。特に中山間地域の農村部では、本当に危機的な状況が続いており、こうした産業がこれ以上衰退すると大変な事態になると考えています。ウクライナ侵攻のような世界情勢により、海外からの食料供給が減少・遅延する事態も想定されます。日本人

の農業・食料に対する意識が薄いと感じておりますので、食料安全保障の観点からも、農林水産業を取り巻く現状や、産業を守り育てていかなければならないということを、国民・府民に広報していただくとありがたいです。今回、京都府全体の未来を考える計画づくりに参加し、子育て・教育や産業、労働など様々な御意見を聞かせていただき、大変勉強になりました。自らの専門分野だけでなく、あらゆる問題について自分なりに協力していけたらと思います。

- 基本計画における「安心・安全の実現」について、コロナ、原子力、風水害などあらゆるリスクに対応していくことが示され、オペレーションルーム等の設置という記載にも一元的に管理していく姿勢が表れており、評価できると思います。今年、平成24年に発生した京都府南部豪雨から10周年の年となります。総合計画でも、温室効果ガスの削減等に触れていますが、気象災害の激甚化は避けられない問題であり、こうしたリスクに備えるとともに、対策を進めていく上で覚悟もしておかなければならないと思います。地震に関する記載が少ないですが、南海トラフ地震発生の可能性は高まっており、しっかりと取組を進めていく必要があると考えます。コロナ禍で学んだことをいかに対策に活かしていくのが重要です。危機管理対応では、人の流れを抑制するために、交通機関で計画運休をしたり、台風接近に伴う外出抑制を求めたり、以前は難しかったことができるようになりました。また、コロナ禍を経て、インターネット等を活用したきめ細かな支援ができるようになった部分もあり、そうした経験を今後の対策に活かしていく必要があると考えます。
- 将来構想に関しては、8つのビジョンを支える基盤として、デジタル技術を活用した関係者のプラットフォーム作りと情報網の整備を明記したことは重要です。基本計画については、文化庁の移転、万博といったランドマークを見据えた、ポップカルチャーの発信、アートや音楽における京都という世界的な場の活用という、アウトバウンド・インバウンド双方の取組に期待します。これもデジタルの力を最大限に活かしていただきたいです。来年は京都国際映画祭の10回目の節目につき、府の広い区域と連携して、本計画・構想に貢献できるよう準備を始めたく存じます。
- 今回の御議論を踏まえ、例えば、基本計画最終案6ページの「子育て」について、子どもや子育て世代を見守り支える「から」の部分を修正するなど、個々の御指摘の改善をしていきたいと思っております。全体としては、年齢、職業、文化的背景など人それぞれであり、この計画を実現するためには、府民の皆様の共感を得ること、参加をいただくことが極めて重要と考えておりますが、一番困ってる方に施策の情報が届いてないという大きな課題を抱えております。この点、委員の皆様からも京都府の取組のPRなどに御協力いただければありがたいと思っております。また、社会的課題は多様なので、分析力が問われるとも思います。数値目標は、企業の売上目標とは異なり、目標達成のためにどのようなプロセスをたどり、その過程

でどのような課題があるのかを点検する役割もあると考えており、その辺りの分析もしっかりやっていきたいと思います。それを進めるためには、府庁の体制をしっかり構築する必要があるとの御意見もいただきましたが、連携する力や分析力など、まさに府庁職員の人材力が問われていると考えており、その点も留意をしていきたいと思っています。

- 私自身、霞ヶ関時代から相当数の計画や答申の作成に関わってきましたが、長い期間をかけて、熱意をもって推進していくことが大切と考えています。現行計画を策定した3年前にも、普段行政と関わることの少ない府民の皆様にも少しでも浸透させることができないかと苦心しましたが、コロナ禍もあり、計画自体のPRはさほどできませんでした。今回計画策定に関わっていただいた委員の皆様におかれましては、それぞれの専門分野での影響力を活かし、計画の中身について府民の皆様の理解促進に御協力いただきたいと思っています。府職員に対しては、就任以来、現場主義の徹底、前例にとらわれないこと、連携にこだわることを求めています。総合計画についても、行政だけで実現できる施策はほとんどないことから、市町村や民間など多様な主体を巻き込んでいくだけの構想力と実行力が必要だと考えており、その点でも委員の皆様の御協力をお願いしたいと思っています。

子どもと子育て世代を見守り支えていくことについて、現状は保護者の方に過度な負担がかかっているの、遠い目標ではありますが、社会で子どもを育てるという形に進化させる必要があると考えています。これは、国が主導して少子化対策を進めていくことにもつながる概念だと考えており、日本全体に対しても影響を与えられるような計画を策定するとともに、その実現に向けて努力していきたいと思っています。